

新正書法対応

独検

3級

突破

CD付

室井禎之 人見明宏 著

Diplom Deutsch in Japan

ANSHUSHA

著者 室井禎之 (むろい よしゆき) 早稲田大学  
人見明宏 (ひとみ あきひろ) 愛知県立大学

## [新正書法対応] 独検 3 級突破

---

著者 室井禎之

人見明宏

発行者 前田完治

発行所 株式会社 三修社

〒110-0004 東京都台東区下谷 1-5-34

営業 TEL 03-3842-1711 / FAX 03-3845-3965

編集 TEL 03-3842-1631 / FAX 03-3841-8125

<http://www.sanshusha.co.jp/>

e-mail: deutsch@sanshusha.co.jp

振替 00190-9-72758

編集担当 柴田明子

印刷所 壮光舎印刷株式会社

---

© 2000 Printed in Japan ISBN4-384-00576-8 C1084

レイアウト・DTP: 麒麟社

装丁: 樋口 新

Ⓔ <日本複写権センター委託出版物>

本書の全部または一部を無断で複写複製  
(コピー)することは、著作権法上の  
例外を除き、禁じられています。本書か  
らの複写を希望される場合は、日本複写  
権センター (03-3401-2382) にご連絡く  
ださい。

Diplom Deutsch

[新正書法対応]

# 独検 3級 突破

室井慎之 人見明宏 著

江苏工业学院图书馆

藏书章

## ● CDトラック対応表 ●

トラック番号 …… ページ

|               |          |
|---------------|----------|
| <b>CD1</b> …… | 130      |
| <b>2</b> ……   | 130      |
| <b>3</b> ……   | 135      |
| <b>4</b> ……   | 145      |
| <b>5</b> ……   | 145      |
| <b>6</b> ……   | 152      |
| <b>7</b> ……   | 152      |
| <b>8</b> ……   | 153      |
| <b>9</b> ……   | 154      |
| <b>10</b> ……  | 155      |
| <b>11</b> ……  | 157 (年号) |
| <b>12</b> ……  | 158      |
| <b>13</b> ……  | 159 (序数) |
| <b>14</b> ……  | 159 (日付) |
| <b>15</b> ……  | 160 (時刻) |

トラック番号 …… ページ

|                |                |
|----------------|----------------|
| <b>CD16</b> …… | 160            |
| <b>17</b> ……   | 161 (値段)       |
| <b>18</b> ……   | 161 (小数点)      |
| <b>19</b> ……   | 161            |
| <b>20</b> ……   | 162 (4桁の数)     |
| <b>21</b> ……   | 162            |
| <b>22</b> ……   | 163 (国名)       |
| <b>23</b> ……   | 163 (地域名)      |
| <b>24</b> ……   | 163 (ドイツ語圏の都市) |
| <b>25</b> ……   | 165            |
| <b>26</b> ……   | 166            |
| <b>27</b> ……   | 190            |
| <b>28</b> ……   | 191            |
| <b>29</b> ……   | 191            |

—— ドイツ語技能検定試験に関する問い合わせ先 ——

財団法人ドイツ語学文学振興会  
**独 検 事 務 局**

〒113-0033 東京都文京区本郷5-29-12-1006  
電話 (03) 3813-0596

◆本書は、財団法人ドイツ語学文学振興会の許諾による出版物である。

## まえがき

本書は、独検 3 級の合格を目指す方が、重点的かつ効率的な勉強をすることができるようにと作られた参考書です。1992 年に始まった独検の過去の出題傾向を調べ、それに沿った受験準備ができるようにと考えました。今回の改訂では、ドイツ語の表記をすべて新正書法に変えました。独検で 2000 年秋季より新正書法が採用されることに合わせたものです。

独検 3 級は、若干の変動はありますが、筆記試験がおおむね 8 つの問題群、聞き取り試験が 2 部からなっています。本書の構成もそれに合わせ、各問題群に一章を当てています。各章は以下の 3 つの部分からなっています。

- 1) 過去の問題。過去の出題を検討し、私たちが典型的かつ重要な問題であると考えたものを選んであります。また、さまざまな傾向の出題をできるだけ取り上げてあります。各問題について正解を記すだけでなく、解答のポイントも詳しく解説してあります。なお、過去の問題は旧正書法で出題されていますが、新正書法に書き換えました。
- 2) <突破のために>では、過去の出題傾向から、押さえておくべきであると判断される文法事項、表現法、語彙、慣用表現などについて整理、説明しています。ところによっては、量も多く、一見煩雑に感じることがあるかもしれませんが、3 級までのレベルの文法、語彙、表現はドイツ語の根幹をなすものです。ここでしっかり基礎を押さえて、その後の学習につなげていってください。
- 3) <練習問題>によって重要事項を再確認しましょう。もちろん正解と解説も付いています。ただし、過去の問題と<突破のために>を踏まえていますので、解説は簡単なものにとどめてあります。

聞き取りについては、問題が付属の CD に収めてあります。他に、聞き取りの際重要な、紛らわしい発音の語、親族用語、数(年号、時刻、値段、小数、4 桁の数)、主要な地名も収録してあります。何度も繰り返し聞いて、耳を慣らし、理解する練習をしてください。

巻末には模擬試験を添えました。出題の形式も独検に準じて作ってあります。難易度も独検とは同じ程度にしています。3 級はおおむね 60 ～ 65% が合格ラインになっています。これを参考に、足りないと思われるところなどを再確認して受験に備えてください。

ことばの学習に近道はありません。本書も独検対策問題集の形をとってはいませんが、受験対策にとどまらず、着実なドイツ語学習に寄与できればというのが私たちの心からの願いです。とりわけ語彙を豊かにすることと耳を鍛えることの重要性はいくら強調してもしすぎることはありません。本書で足りない部分は、語彙ならば重要単語集(W. シュレヒト 他著「独検突破単語集 - 3・4 級必修 1600 -」三修社 など)、聞き取りならばテレビやラジオの放送などによって補うことをお勧めいたします。

室井 禎之 人見 明宏

## 本書の略語・記号などについて

- j* 「人」を表す。右肩の数字は格を表す。  
例： $j^3$  = 「人」の3格
- et* 「物・事」を表す。  
例： $et^4$  = 「物・事」の4格
- sich* 再帰代名詞を表す。主語が *ich* の場合は *mir* または *mich* になる。非人称熟語などに現れて、*sich* の形でしか用いられない場合にはイタリックにしていない。  
例：*es handelt sich um et^4*
- ～ 訳で、*j* または *et* (つまり名詞・代名詞) に対する部分。  
例： $j^3$  antworten ～に答える  
 $et^4$  gelingt  $j^3$  ～<sup>3</sup> が～<sup>1</sup> に成功する  
(必要な場合には、右肩の数字で格を表す。)
- … 形容詞・副詞または文の一部などを表す。  
例： $et^4$  ... finden ～を…と思う  
ただし紛らわしい場合には「～」で形容詞や副詞を表すこともある。  
例：*so* ～, dass ... とても～なので…だ
- ( ) 省略可能および補足説明  
例： $j^3$  (für  $et^4$ ) danken =  $j^3$  danken または  $j^3$  für  $et^4$  danken  
backen (パンなどを) 焼く
- [ ] 言い換え可能  
例： $j^3$  [an  $j^4$ ] schreiben =  $j^3$  schreiben または an  $j^4$  schreiben
- / 言い換え可能、特に *j* と *et* の、また日本語の助詞など  
例：*auf j^4 / et^4* warten = *auf j^4* warten または *auf et^4* warten
- < 変化形の元の形などを表す。  
例：*schlägt* < *schlagen* = *schlägt* は *schlagen* の変化形
- (男・弱) 男性弱変化名詞
- er* (3・単) 動詞の人称変化などで、主語が3人称単数であることを表す。
- sie* (女性) 3人称単数女性の *sie*
- sie* (3・複) 3人称複数の *sie*
- Sie* (敬称) 敬称の *Sie*
- es* 熟語などを挙げる場合、非人称主語の *es* は文頭でも小文字で挙げる。  
例：*es gibt et^4*  
数字は、CD のトラック番号を示す。

## **INHALT 目次**

まえがき— 3

本書の略語・記号などについて— 4

ドイツ語技能検定試験の審査基準— 6

### **筆記試験問題と対策 .....7**

**第1問** アクセントと発音の問題— 8

**第2問** 動詞の変化— 21

**第3問** 前置詞の問題— 39

**第4問** 接続詞・関係代名詞・疑問詞などの問題— 51

**第5問** 語義に関する問題— 66

**第6問** 会話を完成させる問題— 79

**第7問** 会話や文章を読んでさまざまな問いに答える問題— 94

**第8問** 長文読解の問題— 113

### **聞き取り問題と対策 .....129**

**第1部** 質問文に対する適切な答えを選択する問題— 130

**第2部** 会話・文章の聞き取り— 152

### **筆記模擬試験 .....169**

解答と解説— 178

### **聞き取り模擬試験 .....189**

解答と解説— 192

## ドイツ語技能検定試験の審査基準

「独検」の主催者である「財団法人ドイツ語学文学振興会」による「審査基準」を参考として紹介します。

「独検」は、ドイツ語の語学力は、「読む」「書く」「聞く」「話す」力の総合によって成り立つ、ということを基本的考え方においています。したがって、試験内容も各級のレベルにあった形でこの4つの力が問われるよう練られています。

本書は、3級受験者を対象としていますが、2級の審査基準もあわせて紹介しておきます。

### 3級 大学や語学研修などで約200時間程度の学習者

**聞く/話す** 日常生活に必要な簡単な会話ができる。

- ・あいさつや対応ができる。
- ・やや詳しく自分や他人の紹介ができる。
- ・商店、銀行、病院、駅などで自分の意思や要望を簡単な表現で伝えることができる。
- ・伝言や道案内ができる。など

**読む** 簡単な文章（副文を含む）を読むことができる。

- ・簡単な記述文、手紙、広告、看板などを読むことができる。
- ・やや複雑な文章の要点を読み取ることができる。
- ・新聞や雑誌の見出しが理解できる。など

**書く** 簡単な文章（副文を含む）を書くことができる。

- ・日常多用される名詞の性や複数形を正しく書くことができる。
- ・形容詞の格変化語尾を正しく書くことができる。
- ・完了の助動詞 *haben* と *sein* を使い分けることができる。
- ・簡単な手紙や日記を書くことができる。
- ・副文を含む文を聞き取って、その要点を書くことができる。など

### 2級 大学や語学研修などで約400時間以上の学習者

**聞く/話す** 一般的な事柄や用務上必要な事柄について会話ができる。

- ・電話で簡単な用務を達することができる。
- ・簡単な説明、報告、通訳ができる。
- ・自分の意思や要望を間違いなく伝えることができる。など

**読む** 一般的な事柄や用務上必要な事柄についての文章を読み、正しく理解することができる。

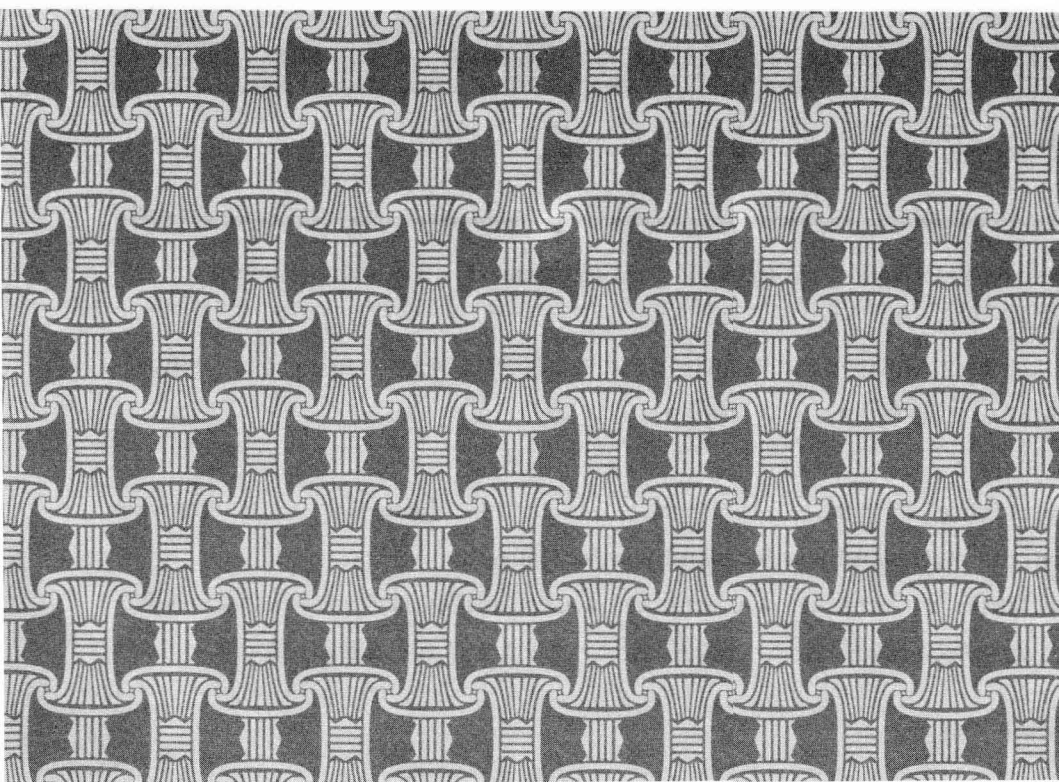
- ・新聞や雑誌の記事を読むことができる。
- ・手紙を読むことができる。
- ・簡単な論述文、説明文、パンフレットなどを読み、その内容を理解することができる。など

**書く** 一般的な事柄や用務上必要な事柄についての文章を書くことができる。

- ・簡単な説明文や記述文を書くことができる。
- ・手紙を書くことができる。
- ・ある程度長い文章を要約し、それをドイツ語で書くことができる。など

独 検 3 級

**筆記試験問題と対策**



# 【 第 1 問 】

## アクセントと発音の問題

●アクセント

次の(1)～(5)の指定された条件にあてはまるものが各組に一つずつあります。それを下の1～4のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) 第一音節にアクセント（強勢）がある。

1 Musiker      2 Musik      3 Kultur      4 Theater      ('92)

(2) 第一音節にアクセント（強勢）がある。

1 Geschichte      2 Getränke      3 Gegenwart      4 Gesundheit ('95 春)

(3) 第一音節にアクセント（強勢）がない。

1 ankommen      2 bekommen      3 mitnehmen      4 zunehmen      ('93)

(4) 第一音節にアクセント（強勢）がない。

1 auswendig      2 unterbrechen      3 übermorgen      4 gleichgültig ('96 春)

(5) 第一音節にアクセント（強勢）がない。

1 seltsam      2 nämlich      3 obgleich      4 sondern      ('97 春)

正解 (1) 1      (2) 3      (3) 2      (4) 2      (5) 3

### 解説

(1) 1 Musiker [mú:zikər], 2 Musik [muzi:k], 3 Kultur [kultúr:],  
4 Theater [teá:tər]。

▶ 1 Musiker は 2 Musik からの派生語ですが、元の Musik とはアクセントの位置が異なるので、注意しましょう。

(2) 1 Geschichte [gəʃiçtə], 2 Getränke [gətrénkə], 3 Gegenwart [gé:gənvart], 4 Gesundheit [gəzúnthait]。

▶ 1 Geschichte, 2 Getränke, 4 Gesundheit はアクセントのない前綴り ge- がついたもので、第一音節にアクセントはありません。これに対し、3

Gegenwart にある gegen は第一音節にアクセントがあります。

- (3) 1 ankommen [ánkɔmən], 2 bekommen [bəkómən], 3 mitnehmen [mítne:mən], 4 zunehmen [tsú:ne:mən]。

▶ 1 ankommen, 3 mitnehmen, 4 zunehmen は分離動詞で、アクセントは分離前綴り (an-, mit-, zu-) に置かれます。これに対し、2 bekommen は非分離動詞で、アクセントは第一音節には置かれません。

- (4) 1 auswendig [áusvɛndɪç], 2 unterbrechen [untərbréçən],  
3 übermorgen [ý:bərmɔrgən], 4 gleichgültig [gláɪçgʏltɪç]。

▶ unter-はアクセントのある分離前綴りとしても、アクセントのない非分離前綴りとしても用いられますが、2 unterbrechen は非分離動詞で、アクセントは第一音節には置かれません。

- (5) 1 seltsam [zéltsa:m], 2 nämlich [né:mlɪç], 3 obgleich [ɔpgláiç],  
4 sondern [zóndərn]。

▶ 3 obgleich や obwohl, obschon における ob はアクセントを持ちません。また、1 seltsam や 2 nämlich にある -sam や -lich は形容詞を作る接尾辞で、アクセントはありません。

●発音・アクセント

次の(1)～(4)の指定された条件にあてはまるものが各組の一つずつあります。それを下の1～4のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。(97秋)

(1) 下線部の発音が他と異なる。

- 1 Chance      2 Charakter      3 Chaos      4 Chor

(2) 下線部の母音が短く発音される。

- 1 Schule      2 Tugend      3 Ufer      4 Utopie

(3) 第二音節(下線部)に語の第一アクセント(強勢)がある。

- 1 amerikanisch      2 lebendig      3 sowieso      4 unbedingt

(4) 下線部に文の最も強いアクセント（強勢）が置かれない。

1 Fliegen Sie nach Deutschland? – Nein. Hans fliegt nach Deutschland.

2 Sind sie nett zu dir? – Hans ist immer freundlich, alle anderen nicht.

3 Wer hat denn das Bild gemalt? – Hans hat das gemalt.

4 Was hat er von Hans bekommen? – Hans hat ihm ein Buch geschenkt.

正解 (1) 1 (2) 4 (3) 2 (4) 4

## 解説

(1) 1 Chance [ʃá:sə], 2 Charakter [karáktər], 3 Chaos [ká:əs],  
4 Chor [ko:r]。

▶ ドイツ語の ch は [x] または [ç] と発音されますが、本問のような語頭の ch は多くの場合外来語で、ドイツ語の ch とは発音が異なるものがあります。このような ch は、2 Charakter, 3 Chaos, 4 Chor のように [k] と発音されることが多いのですが、1 Chance はフランス語からの外来語で、[ʃ] と発音されます。

(2) 1 Schule [ʃú:lə], 2 Tugend [tú:gənt], 3 Ufer [ú:fər], 4 Utopie [utopí:]。

▶ 母音の長短に関する問題です。母音の長短に関しては、その母音に後続する子音が一つの場合は長母音、複数の場合は短母音という原則があります。1 Schule, 2 Tugend, 3 Ufer はすべてこの原則に当てはまります。一方 4 Utopie は外来語で、外来語の場合はこの原則からはずれることがしばしばあります。

(3) 1 amerikanisch [ameriká:nɪʃ], 2 lebendig [lebéndɪç], 3 sowieso

[zovizó:], 4 unbedingt [únbədiŋt]。

▶ 2 lebendig は leben [lé:bən] からの派生語ですが、アクセントの位置や母音の長短が元の語とは異なるので注意が必要です。1 amerikanisch も Amerika [amé:rika] からの派生語ですが、これもアクセントの位置が異なります。一般に接尾辞 -isch で終わる外来語の形容詞は、-isch の直前の音節にアクセントが置かれます。また 4 unbedingt のような 接頭辞 un- は多くの場合アクセントを持ちますが、アクセントのない場合もあります。

(4) 1 Fliegen Sie nach Deutschland? 訳 あなたがドイツへ行くのですか？

– Nein. Hans fliegt nach Deutschland.

訳 いいえ。ハンスがドイツへ行きます。

2 Sind sie nett zu dir? 訳 彼らは君に親切かい？

– Hans ist immer freundlich, alle anderen nicht.

訳 ハンスはいつも親切だけれど、他の人はみんな親切じゃないよ。

3 Wer hat denn das Bild gemalt? 訳 いったい誰がこの絵を描いたんだい？

– Hans hat das gemalt. 訳 ハンスがこれを描いたんだよ。

4 Was hat er von Hans bekommen? 訳 彼はハンスから何をもらったんだい？

– Hans hat ihm ein Buch geschenkt.

訳 ハンスは彼に本をプレゼントしたよ。

▶ 本問は、単語のアクセントではなく、文中でどの語が最も強く発音されるかという、文アクセントを問う問題です。文アクセントが置かれるのは、話し手が最も重要であると判断した語句です。したがって文意を正確に把握し、文脈からどの語句が最も重要であるかを判断しなくてはなりません。本問の場合は、4 の Hans があまり重要ではない、したがって文アクセントを置かれない要素です。ここでは疑問文にある was に対する答え ein Buch が最も重要で、すでに疑問文に現れている Hans を強調する必要はないからです。

## 突破のために

第1問は、アクセント・発音などに関する問題が出題されています。そのうち大部分はアクセントの位置に関する問題で、特に第一音節にアクセントのないものを選択する問題が半数以上を占めています。以下ではアクセントの問題に重点をおいて説明しましょう。

### 1 前綴り

基礎となる語の前について派生語を作る接頭辞で、アクセントを持つものと持たないものがあります。

#### a) 分離前綴り

分離前綴りは常にアクセントを持ち、基礎動詞と共に分離動詞を形成します。ただし出題されるのは動詞とは限らず、(分離動詞から派生した) 名詞や形容詞も多数あります。分離前綴りは非常に数も多いので、特に重要なものを挙げておきます。

ab-, an-, auf-, aus-, bei-, ein-, her-,  
hin-, mit-, nach-, vor-, weg-, zu-

その他, stattfinden や teilnehmen (Teilnehmer) も分離動詞 (とその派生語) です。また, zurück- や zusammen- も分離前綴りとして用いられます。

#### b) 非分離前綴り

非分離動詞を形成する非分離前綴りは、アクセントを持ちません。これには以下の8個しかありません。

be-, emp-, ent-, er-, ge-, miss-, ver-, zer-

このうち miss- のみはアクセントを持つことがあります。過去に missverstehen が出題されています。また、非分離動詞との関係で過去に出題され

たものに, gestern や gegen, Gegend, Gegenwart, gelten などの語があります。これらは, ge で始まっていますが, 非分離前綴りの ge- ではないので, すべて第一音節にアクセントを持ちます。

### c) 分離・非分離前綴り

少々厄介なのが, 分離・非分離前綴りです。これはアクセントのある分離前綴りとしても, アクセントのない非分離前綴りとしても用いられます。これも以下の8個しかありません。

durch-, hinter-, über-, um-, unter-, voll-, wider-, wieder-

これらの前綴りは, 意味の点では一般に, 空間的・具体的意味を表す場合は分離前綴りとして, 抽象的・比喩的意味を表す場合には非分離前綴りとして用いられます。

例: über|setzen (船で対岸へ) 渡す      wieder|holen 取り戻してくる

übersetzen 翻訳する      wiederholen 繰り返す

(wieder- が非分離前綴りとして用いられるのは「繰り返す」という意味の wiederholen のみです)

ただしアクセントの問題に, übersetzen のような分離動詞・非分離動詞どちらもある語が出題されることはまずありません。したがって複合動詞の場合なら, 分離動詞しかない語 (umsteigen など) や, 非分離動詞しかない語 (überraschen など) に注意しましょう。以下にアクセントの問題として過去に出題された語を中心に, 重要なものを挙げておきます。

durch|führen, Dúrchgang, Dúrchschnitt, dúrchschnittlich,  
úbermorgen, übernächten, überquéren, überráschen,  
überzéugen,  
Úmfang, Umgébung, úmständlich, úm|steigen, Úmwelt,  
úm|ziehen,  
unterbréchen, unterhálten, unternéhmen, Unternéhmen,

Únterricht, unterrichten, Unterschied, unterschreiben,  
unterstützen, untersuchen,  
vollenden, vollkommen,  
Wiederholung, Wiedersehen

## 2 外来語

外来語も、アクセントの問題によく出題されます。外来語の場合は、通常最終音節か最後から2番目の音節にアクセントが置かれます。以下に重要なものを挙げておきます（太字の語は過去に出題されたものです）。英語とアクセントの位置が異なるものは、特に注意が必要です。

### a) 最終音節にアクセントがある

- ál : **Lokal**, national, **original**, Regal
- ánt : interessant, Restaurant
- át : Automat, privat
- itât : Qualität, Universität
- ée : **Alee**, Idee
- éi : **Bäckerei**, Partei, Polizei (外来語ではありません)
- éll : finanziell, kulturell, originell, speziell
- ént : intelligent, Patient, **Präsident**, **Student**
- ier : Klavier, Papier, Passagier
- ín : Benzin, Medizin  
(女性形を作るための -in は別: Studént – Studéntin)
- ión : Diskussion, Information, Million, **Nation**, Religion,  
Situation, Tradition
- íst : Journalist, Polizist
- mént : **Medikament**, Instrument
- ón : Beton, Person

- thék : Bibliothek, Diskothek ; Apotheke
- túr : Abitur, **Kultur**, Literatur, Natur, Reparatur ;  
**natürlich**

b) 最後から2番目の音節にアクセントがある

- ette : Tablette, **Toilette**, Zigarette
- ieren : studieren ; **spazieren**
- ismus : Kapitalismus, Sozialismus
- isch : europäisch, politisch  
(外来語でないものは別 : ausländisch, schweizerisch)
- ium : Gymnásium, **Stúdium**
- or : Áutor, Dóktor, Proféssor (複数形では -óren : Doktóren)
- um : Muséum, **Zéntrum**

c) 以下のものはアクセントの位置が一定していません。

- ie : Chemíe, Demokratíe, Energíe, Garantíe, Geographíe,  
Melodíe, Philosophíe, **Theoríe**  
**Famílie**, Komódie, Lílíe, Líníe, **Stúdie** ; Férien,  
Itálién, Spáníen
- ik : Mathematík, **Musík**, Politík, Physík  
Grammátik, **Téchnik**

これ以外に過去に出題された外来語には、以下のものがあります。

a) 第一音節にアクセントのない語

Garáge, Hotélzimmer, Institút, Problém, Theáter

b) 第一音節にアクセントのある語

Fótoapparat, Fírma, Ménsa, Músiker